

めぐみ

2025年
9月号

学校法人 聖公会北関東学園
認定こども園
初雁幼稚園
〒350-0057 川越市大手町 8-5
Tel 222-5385 Fax 228-5010

踏み出す一歩

保育部担当 伊藤 愛莉



私が母親と話している時によく思うことは、「この母にして娘はなぜこんなにネガティブなのだろう」と感じる事です。私は基本的に考えごとをしたら自分を追い込むタイプで、ハッピーエンドよりもバッドエンドに考えがちな人間です。それに比べて母はやってみよう精神が旺盛でありあまり深く考えない性格。なので、「なんでそんなに楽観的な!?」と理解できない時があります。

社会人になって特に母のすごさを実感したことは、今まで働いていた仕事を辞めて、大好きな料理を自分一人で仕事にしたいと言い、「キッチンカー」を始めたこと。最初は「いつかできたらいいな」という未来予想図だったので、私は本気にしていませんでした。が、考えていくなかでいろいろと想像が膨らみ、大変な準備さえもどこか楽しそうに始め、予定よりもはるかに早く自分のお店を持ちました。「売れなかったら収入ないんだよ」「一人だから誰も助けてくれないじゃん」と、私はここでもマイナス思考が止まりません。一方の母は「とりあえずなんとかなる」と、まあ男前な姿勢！経理も出店アポもメニュー開発も初めてのことだらけであたふたしていましたが、自分のやりたいことが着実に形になっていく姿を見て、「自分の『やってみたい!』を実現できる人っていいな」「始める前から失敗を考えてやらなかったことを後になって後悔している自分ってちっぽけだなあ」と感じてしまいます。

そしてふと思ったことは、私の友だちもみんなポジティブ思考な子が多いこと。「それいいじゃん」としっかりと言葉で肯定してくれ、「失敗したらその時考えよ!」と言ってくれます。人間って足りない部分を補ってプラスとマイナスがいいように組み合わせられているのだな、と考えさせられました。心強い人が私のそばにたくさんいてくれることに感謝ですね!!私もこれからの人生で小さな夢や挑戦が訪れることがあるかと思いますが、そんな時は母や友だちの「とりあえずやってみよう」を心の片隅に置いて、一歩を踏み出してみようと感じました。

この話を母にしたら「え?初雁幼稚園の子どもたちとか先生来てくれるかしら」とニヤニヤしていたので、この場を借りて宣伝させてください(笑)基本的には、土日祝日に狭山の智光山公園(動物園側)でクロワッサン+ワッフルを掛け合わせたクロッフルという韓国デザートを売っているので、是非興味がある方は食べてみてください♪多分、泣いて喜ぶと思います。

今月の保育目標と予定

☆保育目標☆

今月のテーマ

「おもしろそう」

今月のねがい

- 身体を十分に動かして、挑戦する
- 夏の経験を通して、遊びが広がる。
- 目に見えない神様の存在を感じる

学年別のねがい

- (1歳) 模倣して遊ぶ
- (2・満3歳) 気持ちを表す
- (年少組) 友だちの存在を強く感じるようになる
- (年中組) 友だちの思いを知る
- (年長組) さまざまな感情を経験し、乗り越えようとする

ひとこと

暑い夏、どのように過ごされたでしょうか。家族と一緒に出かけ、普段できない経験をした子もいるでしょう。幼稚園でも毎日水遊びや氷遊びの他にいつもと違う特別プログラムを楽しみました。いつもと違う夏を過ごして、久しぶりに会う子どもたちは心も体も一回り大きくなった姿を見せてくれます。力をつけた子どもたちが「おもしろそう！」を見つけて取り組んで、友だちと共に世界を広げていく2学期になってほしいと思います。

今月の聖歌

「すんばらしき主イエスの愛」

★予定★

日	曜	行事などの予定
1	月	
2	火	
3	水	
4	木	アルミ缶回収
5	金	全体礼拝 ↓
6	土	就労家庭保育実施日 園内整備 職員研修③
7	日	
8	月	保育部個人面談週間（～12日）
9	火	年中懇談・交流会
10	水	年少懇談・交流会
11	木	年長懇談・交流会
12	金	全体礼拝
13	土	就労家庭保育実施日
14	日	
15	月	敬老の日
16	火	おはなしの会
17	水	
18	木	「はつかりホッとカフェ」④
19	金	全体礼拝
20	土	「あそぼうよ」③ 就労家庭保育実施日
21	日	
22	月	
23	火	秋分の日
24	水	9月誕生会 初雁中職場体験①
25	木	初雁中職場体験②
26	金	全体礼拝
27	土	就労家庭保育実施日 幼稚園委員会
28	日	教会学校秋の遠足
29	月	
30	火	



特集 草津キャンプ 7月15~17日

年長組は2泊3日、群馬県草津町にある聖マーガレット館に宿泊します。100年を越える建物はすでに歴史的建造物…未だに宿泊施設として利用していることに驚かれます。イギリスから来た女性宣教師、コンウォール・リー女史が、ハンセン病にかかった父母のお子さんを預かり、父母の代わりとなって育てた場所です。リー女史は私財を全て投じて、ハンセン病を患った方を癒し、病院、保育所なども作りましたが、現存しているのは聖マーガレット館だけです。聖マーガレット館の隣にはリー女史の徳をたたえる「頌徳公園」があります。

3日間、同じ時間を過ごしているからこそ

年長組担当 内田詩緒梨

毎年キャンプを楽しみにする子が多い中、今年のすみれ組はおうちの人と離れることにドキドキする子もいましたが、楽しみもドキドキも荷物と一緒にバスに乗せて草津に連れていきました。

出発前から雨が降ったり止んだりする中、子どもたちは「雨でも楽しめるのかな」「西の河原に行けるのかな」と話していました。草津に着いたらさらに大雨…、それでも先生方は諦めません！「雨が降らないうちに行こう」「雨が止むまでマーガレット館で遊んでいよう」と天気予報より頼りになる先生やマーガレット館で子どもが楽しめるよう一緒に遊ぶ先生。荷物を降ろして子どもたちを車に乗せる準備をする鈴木司祭。晴れても雨でもすぐ出かけられるように準備をする先生たち。そして急な予定変更でも「やった！楽しみ」と前向きな子どもたち、みんなの団結力で草津キャンプでしか味わえないことが全部できました。

1日目2日目は盛りだくさんで、いつの間にか夜になりぐっすり眠っていました。友だちと手をつないだり、体をくっ付け合いながら寝たりと、キャンプは寝る時間も含めてすべての時間が特別です。また、マーガレット館で畳部屋に集まって遊ぶのも特別。相撲、ねごっこ、お絵かき、鬼ごっこ、マッサージ屋さん、体操など雨でも楽しんで過ごせました。3日目はおうちの人を思いだし涙する子もいましたが、「大丈夫だよ。もう少しでパパやママに会えるからね」と子ども同士で励ます姿や、鞆の中から荷物が探せず泣いている子には助けてあげる姿も。普段から友だち思いの子どもたちですが、自分も頑張っている中、相手のことを思い優しく声かけできるのは3日間同じ時間を過ごしているからこそだと思います。

私の知っている限り、お泊り保育で2泊3日を過ごす園はどこにもありません。自分が通っていた幼稚園は秩父で1泊でした、最近では場所を幼稚園にして1泊する所も多いです。そんな中でも草津キャンプを続けていく意味は、草津ならではの経験や共通の思い出が子どもたちに大きな成長をもたらしてくれるからだだと思います。キャンプ後の保護者のアンケートには、「自分で進んで支度ができるようになりました」「キャンプがとても楽しかったようです」などの感想をいただきます。それを読むと、「草津キャンプ頑張ってたね！」と先生たちも思いますし、キャンプを経験した夏休み明けの子どもたちはたくましくなります。これから行事の多い2学期ですが、キャンプで培ったたくましさや団結力で進んでいきたいと思います！

「キャンプ楽しみ」が「あ～楽しかった！」に

年長組担当 星 美由紀

「草津キャンプに行くよ」と伝えてから約1ヵ月間。すみれ組の子どもたちと楽しみに待てるように準備しました。最初に全部伝えてしまうと混乱してしまうため、キャンプの秘密として20回に分けて伝えることにしました。

初めは日程と「何で」「誰と」行くかを発表、それを聞くだけで子どもたちはドキドキ、ワクワク！日程を聞くとすぐではないことを知り、子どもたちは安堵の表情です。「乗り物は大きなバスだよ」と聞くと大興奮し、誰と行くかはお得意の絵でクイズ形式に発表しました。「詩緒梨先生、美由紀先生は行くでしょうよ」と予想通りの表情の子どもたち。菜緒先生は

「ヤッター!」、路子先生は「面白いじゃーん!」、由香里先生は「そうか。行かないとね。園長先生だもんね」、亜希子先生は「え?」と一瞬驚きつつ、コアなファンがいるので喜びに満ち溢れてました。最後の似顔絵では四角い輪郭を描いた途端、「似てる! 鈴木先生!」と爆笑の渦に。最後に「先生たちも元気じゃないとキャンプに行けないからね」と話すと、すみれ組は素直にその日から先生方に「元気?」と確認をするのでした。

カーテンを閉め、ドアの丸窓は新聞紙で目貼りをし、炎は本番でということで工事用の明るいライトで照らしながら、キャンプファイヤーごっこでタタロチカやジェンガを何度も踊りました。「西の河原はどんななの?」とわからないけれど大型積木を使って川を表現しました。ごっこも楽しく遊んでいましたが、「本当に温かい!」「こっちは冷たいと」ごっこ遊びが現実になった瞬間を共有し、「体験って素晴らしい」と感じることもできました。

雨で予定とは違うキャンプになっても、準備してきたことのほとんどができたのは奇跡! 楽しかった思い出も嬉しいですが、「寂しかった、嫌だった」ことも素敵な経験です。みんなで一緒に過ごしたキャンプを忘れないで欲しいな、と願います。荷物確認など、お家の方の数々のご理解ご協力、本当にありがとうございました。

草津の夜…できることを存分に楽しむ!

年中組担当 大川戸菜緒

1日目に降った雨は夜通し降り続けました。初日の夜は子どもたちが楽しみにしていたキャンプファイヤーの予定でしたが、天気だけはどうにもならず…。代案として準備していたのがパジャマファッションショーです。食堂の電気を消し、レッドカーペットを敷き、ミラーボールやライトで照らして会場が完成! みんなで「〇〇ちゃん!」と呼ぶと、ちょっぴり恥ずかしそうに登場! でも嬉しそうにペンライトを振りながらのランウェイ♪そして決めポーズをして戻っていきます。トリはみゆき先生! バカ殿の衣装を着てノリノリで登場! みんなでマツケンサンバを熱唱&踊り、大盛り上がりでした!

2日目の夜も雨が心配されましたが、なんとか持ち堪え、夜の草津の街へ散歩に出ました。初の試みに私もとても楽しみにしていました。お守りに光るブレスレッドをみんなでつけます。昼間も通った道でしたが、夜になると雰囲気が一変! 裏草津も湯畑もライトアップされていました。キャンプでしかできないみんなで行く夜散歩に、子どもたちもとても楽しそうで、あちこち見たり、発見を伝え合ったりしているうちに、気付くと1時間以上経っていて、たっぷり楽しむことができました!

予定通りにいかず、天気は左右されながらのキャンプでしたが、その時できることを存分に楽しむ子どもたちだからこそ、新しいことも一緒に楽しめたなと思います。昨年一緒に過ごしていた時にはドキドキすることが多かった子どもたち。でも予定の変更にも動じない姿に成長を感じたキャンプでした。ちなみにキャンプファイヤーは2日目の夕方にできました!

熱帯圏の館長さんにもお世話になりました!

年少組担当 森重 路子

草津はいつも、雨雲と天気予報を見ながらのキャンプになります。今年も同じく、キャンプ前は絶望的な雨予報でしたが、山の天気は変わりやすく、みんなの希望と気合でほとんどのカリキュラムを行うことができました。

1日目は、土砂降りの雨。バスから降りて歩いて2~3分のマーガレット館にさえ、鈴木先生の車でピストン輸送の移動でした。急きょスケジュールを変更し、昼食後は熱帯圏にまた鈴木先生の車でピストン輸送してもらい行ってきました。熱帯圏には新しくふれあい館ができていました。小動物や昆虫を実際に抱っこしたり、近くで観察したりできるのでみんな大喜び。じっくり触れ合うことができました。その後熱帯大ドームでもたくさんの動物をみて回りました。大ドームは老朽化が進む建物で、「屋根があるのに雨が降ってくるね!」と言いながら、回りました。大ドームの後は「ドクターフィッシュ!」と楽しみにしていたら、なんとドクタ

ーフィッシュの時間は終了してしまいました…。残念そうな子どもたちの様子を見て、館長さんが特別に体験をさせてくれました。館長さんはその後の帰り道のピストン輸送の際もミニバスを運転して送ってくださり、とてもお世話になりました。子どもたちも、自ら、一人ずつお礼を伝えに行っていて、こんな経験もキャンプならではの良い出来事だと、微笑ましく思いました。

翌日は朝から青空！雨予報も出ていたので、遊べるうちにと朝食前から頌徳公園で遊びました。午前中は西の河原にも行ってきました。大自然の中でのびのびと遊べるのは、涼しい草津ならではの醍醐味です。お湯と冷たい水の混じる川の流れ、不思議な形の石、いろいろな虫、変わりゆく雲の形、ゆったりと楽しめる時間、笑い合える友だちの存在…。最近の酷暑続きの日々に、こんな中で過ごせるのは貴重な時間なのかと思いつつ、私も楽しませてもらいました。

初めて草津キャンプに参加して

保育部担当 小島亜希子

すみれ組の子どもたちと同じで、私も初めての草津キャンプ！ドキドキワクワクなキャンプでした。思い返せば 20 数年前、初雁幼稚園に通っていた長女を先生方に託した立場から、今年は大変なお子様を預かる立場となりました。長女は聴覚に障がいがあったため、耳から情報を得ることが難しく、視覚からの情報が頼りで、不安も大きかったようです。そんな娘の姿と重ねながら、泣いてしまう子がいても泣き止む時間もあるし、笑顔で遊んでいる姿を見るとほっとした気持ちになりました。

キャンプのプログラムは盛だくさん！雨雲レーダーとにらめっこしながら、「この時間ならこれができるかも！」と予定を組み直し、予定していたすべてのプログラムができたことは、すみれ組の子どもたちが日ごろから神様に心を寄せ、守られているのだと思いました。どのプログラムも楽しいものでしたが、西の河原遊びは印象的でした。わが子から聞いていた冷たい水と温かいお湯が流れている川…、実際に入ってみると冷たい水が流れている所は流れも速いところもあり、スリル満点！温かいお湯が流れている所はゆったりできて、なんとも不思議な場所でした。

3日間、すみれ組の子どもたちと過ごすことができ、子どもたちの力に助けられ、困っている子にそっと寄り添えるやさしい気持ちを持っている子、みんなで協力してやり遂げていく姿を近くで見守れたことに私自身が成長させていただきました。

園外にも子どもたちを見守ってくれる存在が

園長 山本由香里

草津キャンプに行くことは、究極に言えば、家族以外の誰かに自分の命を預けることでもあります。子どもたちは大好きな家族と離れる寂しさが一番大きいと思いますが、保護者からすると出発した時と同じように戻ってきてほしいという思いが一番強いことでしょう。

安心して命を預けるには、お金以上に信頼できる人が重要です。数年前にバスの事故が全国で相次いだ時には保護者の不安が高まり、草津キャンプの存続が難しくなる状況になりました。その不安を払拭したのが、同じバス会社で同じ運転手さんをお願いをし続けるという条件でした。それが、現在の運転手の上岡さんです。

鈴木司祭も大型バスの運転ができる資格を持っており、毎回、上岡さんの運転するバスの後ろに自家用車をつけて草津に向かいます。鈴木司祭曰く、上岡さんが高速道路を運転している時間は毎年ほぼ同じとのこと。東松山から伊香保の距離は変わらないので、速度 80 キロを維持しているのが分かります。上岡さんの車は、高速道路でも山道でも変わらず安全運転で、揺れることがほぼありません。ただ一つ申し訳ないのは、登坂車線がない一車線の道路では後ろに車が詰まってしまうことです。

上岡さんのすごいところをもう一つ。帰りのバスでは出発後すぐに子どもたちを寝せるため、

草津から道の駅「おのこ」まで単調に数を数え、その間、目をつむります。疲れもあり大人まで強い睡魔に襲われる中、その時間も眠そうになることは全くなく、子どもたちがうとうとしている姿をほほえましくそっと見ていてくださいます。バス内で子どもたちがいくらうるさくしても、嫌な顔をされたことはなく、いつも穏やかな笑顔！車から降りる時にはいち早くドアの入り口に回り、大人も子どもも変わらず丁寧にあいさつをしてくれます。園外にも、初雁幼稚園の子どもたちを温かく見守ってくれている存在がいることの心強さは計り知れません。上岡さん、いつもありがとうございます。



今月の聖書のおはなし



☆9月5・12・19・26日「ヨセフ物語Ⅰ～Ⅳ」

創世記 37:1～47:12

カナンの地に住むようになったヤコブには、12人の息子をはじめ、たくさんの財産が生まれました。ヨセフはヤコブの11番目の息子で、父親から特別にかわいがられていました。ヨセフはときどき夢を見て、兄弟たちに話して聞かせました。畑で麦の束を結わえていると、束のまわりにお兄さんたちの束が集まってきて、ヨセフの束にひれ伏したことが、太陽と月と11の星がヨセフにひれ伏したことなどです。それを聞いたお兄さんたちはヨセフを憎み、ヨセフを穴に落としてエジプトに向かっていた商人たちに売ってしまいました。売られたヨセフはファラオ王の宮廷の役人の奴隷となりました。

奴隷となったヨセフは主人によく仕え、信頼されるようになり、やがて財産の管理まで任せられるようになりました。主人の妻はヨセフを誘惑しましたがヨセフが聞き入れないので、妻はヨセフから誘惑されたと訴え、主人は怒って彼を王の囚人をつなぐ監獄に入れてしまいました。

ファラオ王が夢のことで悩んでいたときに、かつて監獄で自分の夢をヨセフに解いてもらって赦されたことを給仕の長が思い出し、ヨセフの力を王に告げたのでヨセフが召し出されました。ヨセフは王の夢を解き、7年豊作の後で飢饉が7年続くことを神が実行されると予告しました。王はヨセフを大臣にとりたてました。やがて7年の豊作のあと飢饉がやってきました。エジプトには食糧が豊富にあり、周りの国から食糧を買いに大勢やってきました。ヨセフの兄弟たちもうわさを聞いて、食料を買いにエジプトに向かいました。兄弟たちはヨセフが大臣であるとは全く分かりませんが、ヨセフはすぐに分かりました。

飢饉がますますひどくなり、ヨセフの兄弟たちは末の弟ベニヤミンを連れて再びエジプトにやってきました。まだ自分の身を明かしていないヨセフは、兄弟たちを歳順に座らせ、丁重にもてなしました。一行が帰る際に、兄弟たちは盗みの疑いをかけられ、再びヨセフの前に連れ戻されました。そこで、ついにヨセフは身を明かしたのです。その後ヤコブ一族は王のゆるしを得てエジプトに移りました。

(山本由香里)